

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0972300735		
法人名	医療法人木水会		
事業所名	グループホーム八州苑いわふね		
所在地	栃木県下都賀郡岩舟町静1281-1		
自己評価作成日	平成24年9月30日	評価結果市町村受理日	平成24年12月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokouhyou.jp/kaigosip/Top.do?PCD=09
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人栃木県社会福祉協議会		
所在地	栃木県宇都宮市若草1-10-6		
訪問調査日	平成24年10月31日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

月1回の外食会やドライブ、希望に添った外出支援や法人内の行事参加、ユニットを活かしてのA・B館合同によるお楽しみ会やホテル見学、イルミネーション見学の夜間外出などを通し、四季を感じていたけよう工夫している。また、御家族参加型の行事のほか面会や手紙・電話などで普段から相談・協力を頂いていて、入居者を共に支える環境になっている。最近では、ボランティア受け入れなども増え、地域との関わりも増えてきている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは町の中心部にあり国道50号線から少し離れた比較的閑静な住宅地に位置している。法人の基本理念や行動指針以外に各ユニット毎に職員全員で「笑顔と思いやりで心と心をつなげよう」や「一日一笑」という年度毎の目標を掲げ職員間で共有するようにしている。当ホームで開催する納涼祭に近隣の方に来所して頂いたり、町の傾聴ボランティアに来て貰うなど利用者との交流に深めている。また、運営推進会議に地域の民生委員に参加頂いたり地域との交流も深めている。利用者一人ひとりを人生の先輩として尊重する意味から言葉による拘束には十分注意しており、職員から「不適切なケアシート」を提出させ、その都度職員を指導したり職員間でも注意し合っている。また、外食会や季節に応じて花見に行ったり、日頃から玄関前で体操や焼き芋会などを企画し、更に利用者個々の買い物などにも柔軟に対応するなど外出支援に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「基本理念」「行動指針」をホールの目立つ所に掲示すると共に、毎朝申し送りの際に全職員で唱和し意識を高め、理念の実践に努めている。また、年度ごとに目標を掲げている。	ユニットごとに「笑顔と思いやりで心と心をつなげよう」「一日一笑」を掲げ、職員全員で年度毎の目標を作成している。基本理念と行動指針を唱和するとともにこの目標を実践に繋げている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の商店より食材を購入したり、運営推進会議に民生委員の方が参加している。月に2～3回傾聴ボランティアが来苑し、交流がある。また、行事に地域の方々も参加していただいている。	当ホームで主催する納涼祭等へ近隣の参加やホテル見学先で地域の方との交流がある。また、玄関前が通学路で子ども110番として協力し、児童達が利用者に声を掛けてくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小学生の施設見学、実習生・ボランティアの受け入れ等を行っている。また、地域の方からの介護や施設サービスに関する問い合わせや相談などにも対応している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回行っており、入居者・家族・民生委員・地域包括支援センター・役場に同席して頂き、状況の報告・説明をし意見交換をしている。また、会議で出た意見を定例会等で話し合い、サービスの向上に活かしている。	利用者や家族には交替で出席頂き要望等を聞いているが、入居して家族関係が良好になったことが多い。民生委員も二地区交替で参加して貰い、地域の情報を話して貰っている。地元の消防や警察官への出席依頼は行っていない。	二つの町会の境界線上にあることから役員への出席依頼は行っていないが、当面二つの町会への出席依頼と情報交換をし、議題により地元の消防団や派出所の警察官への出席依頼も行うことを期待します。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加していただき、情報交換を行っている。また、問題が生じた際は相談し共に問題解決に取り組んでいる。	町担当者と包括支援センター職員は毎回、運営推進会議に出席頂いている。また自治会に加入していないことから町広報誌等を送付して頂きイベントなどの情報を得ている。さらに、入所希望者などの情報も提供頂き良好な協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	不審者進入防止の為、家族了承のもと施錠しているが、希望時には外出できるようにすることで閉鎖的空間を感じさせないように努めている。また、身体拘束マニュアルの設置や勉強会を開き、理解を深めている。	「ダメ」「ちょっと待ってください」等は言葉による拘束のおそれがあるので、その場合は理由を話すように管理者が指導したり、職員同士でも注意し合っている。身体拘束も含めミーティングで確認している。玄関や窓は日中開放して拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時などに全身の状態観察を行い、傷やアザ等があった場合は、原因を明らかにし職員間で情報の共有を図っている。さらに、毎月虐待シートを用いたり勉強会などで理解を深め、防止に努めている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の勉強会を行っている。必要と思われる入居者の家族には制度についての説明を行い、活用を検討していただけるように支援している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時は担当者が分かりやすく不安がないように納得するまで説明している。解約時も家族とよく話し合い、次の受け入れ先が決まってから退居していただいている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で意見を伺ったり、ご意見箱を設置している。面会時のヒヤリングなど家族も意見しやすい環境を作っている。また、当ホーム以外にも苦情相談窓口があることを説明し、いただいた意見は職員間で話し合い運営に活かしている。	面会時には丁寧に日頃の生活状況を説明している。家族からは見守りや就寝のことなどのケアに関する要望が多い。また、面会の少ない家族には記録したものを良く読んで頂いている。来所の多い家族とは話しやすくなっており、それらの意見も運営に活かしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月ごとの定例会やそれ以外でもスタッフへの問いかけ等は随時行われており、それらを運営に反映させている。また、管理者から代表者にそれらを伝える機会がある。	月末の定例会で意見等を聞き、出席できない職員からはメモを提出して貰い全職員の意見等を確認している。会議結果は定例ノートで残される。活発に意見が出され、最近では勤務体制の変更もされるなど、意見反映に繋いでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	資格取得者などを表彰することで、向上心を持って働ける環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内の勉強会に加え、ホーム独自の勉強会を行っている。また、外部の研修にも積極的に参加し、知識や質の向上に努めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人内の他の介護サービス事業所との勉強会や行事等を通じてサービスの向上を図っている。他事業所からも研修生の受け入れや他事業所への見学も行い、情報交換をしている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	心身状況の他、生活歴や生活環境等、できる限りその方のことを聴き取り、不安や要望等にも耳を傾け理解に努めている。本人が入居した場合の生活がイメージできるように随時見学を受け入れている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記の中で、家族との情報交換をすると共に、些細なことでも連絡を取り合い、意見を聞き取り、相談に応じている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族の状態を把握し、求めているもの、必要としているものは何かを考えその人にあつたサービスなのか見極め、当ホームだけでなくほかのサービス利用も検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	スタッフは共に暮らすということを念頭に置き、入居者から裁縫・料理・園芸を教わったり、一緒に行っている。掃除や洗濯など出来る事への支援もしている。また、レクや外出を通して、一緒に楽しむ機会を設けている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会時や手紙、電話にて近況報告や状態の説明などの連絡を密に取り、本人と家族、ホームと家族の関係を築いている。面会の少ない家族には面会を促すと共に、来やすい雰囲気心を心がけホーム運営の協力を仰いでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	電話や手紙の希望があるときは、積極的に支援をし、面会者にはお茶やお茶菓子を差し入れ来訪しやすい環境に気をつけている。また、入居者の希望により職員と自宅の様子を見に行ったり、同敷地内のデイサービスに行き、友人と会う機会がある。	隣接のデイサービスの友人を訪ねたり、近距離のドライブを兼ねて利用者の自宅に行ったりしている。また、墓参りや馴染みの美容院への付き添い支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	スタッフは利用者一人ひとりと向き合うことで、利用者同士の関係性を把握し、問題発生の際、お互いの言い分を十分に聞き、公平な立場で問題解決につなげている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	随時相談等に応じられる体制を整えており、希望者には、法人の広報新聞を送付している。入院、死亡退居の場合はお見舞いや弔問等で本人・御家族の精神面の支援も行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式を活用することで、本人の希望・意向・趣味等を把握し、これらを参考にし、レクリエーション・行事・役割等を検討している。	センター方式の一部を活用したり、日常の会話から、電車に乗りたい等の具体的な意向を把握し実現している。また、思いを余り言わない利用者には、連絡伝達帳なども活用し、話のポイントを絞って聞くように工夫している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時ヒヤリングを行い、その後の本人や家族のふとした会話にも気をとめ、センター方式を活用し、これまでの暮らしの把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の生活状況を詳細に記録し、定例会で職員各々の情報を共有し、現状を把握してケアプラン等に活かしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人と家族のヒヤリングを基に介護職員・医療関係者の意見を加味し、ケアプランに活かしている。カンファレンスを定期的に行い、ケアプランを作成し、状況が変化した場合はその都度、見直しを行っている。	定例の会議とは別にカンファレンスを開催し3か月に1回は見直すようにしている。レベルの維持継続が新しい発見になり、あまり細かいことは決めない方針で現状に即した計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各種記録を整備し、事柄だけではなく会話の内容や表情等も記録している。また、記録物はいつでも閲覧できるようにしており、情報を共有・把握し、見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	ホーム単体のみならず、法人内の他の事業所と連携し、本人と家族の希望や状況に応じた対応・支援をしている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣の公共施設の利用や行事への参加、ボランティアや実習生の受け入れ等、地域資源を活用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	同法人の医院を定期的を受診しているが、本人・家族と相談の上でその他の医療機関も受診する事ができる。受診の際には、本人の状態を的確に伝えられるよう各種記録を持参して、スムーズな診察が受けられるように支援している。受診結果は、家族と職員で情報の共有をしている。	同法人の医師をかかりつけ医とする利用者が多い。2週間に1回程度職員が同行して受診し、その結果を家族に連絡している。眼科や整形外科等の他院には、家族にお願いすることが多い。急変時には同法人の医師・看護師に対応してもらう。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	急変時には、同法人内の医師や看護師に報告・相談し素早く適切な対応が出来るようにしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は家族や病院と密に連絡を取り状態の推移を把握している。また、利用者のホームでの生活の様子を伝える等、情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	日頃から状態の変化について家族に報告している。グループホームで出来る事を本人・家族に説明し、対応している。	重度化した場合における対応及び看取りに関する指針を作成しており、契約時にも家族に説明をしている。家族が同意し医師等の了解を得られれば実施する体制になっている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	勉強会を行ったり、マニュアルを作成し、事故発生時や緊急時対応を習得している。地元の消防署による通報訓練など、災害発生時の対応も身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的な避難訓練を実施している。また、消防署との連携をとり、通報・避難訓練を行っている。民生委員を通し、地域との協力体制を整えている。	夜間想定を含め3か月に1回は利用者を含めて避難訓練を実施している。職員は通常の会議等の際に消防器具等の使い方について練習し、また、新入職員は直ぐに出来るよう特に行っている。近隣の方の参加はない。備蓄は乾物類や缶詰が用意してある。	夜間は1ユニットに職員1人なので、今後、地域の方に避難訓練にも参加頂くことを検討することを期待したい。また、備蓄は水等も含めることも期待したい。

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	申し送りや実際の支援を通じて、入居者の身体面・精神面の状態を把握し、意思尊重を心がけ個別に適切な対応を心がけている。	名前は「さん」付けで呼んでいる。新入職員や異動の時、接遇研修をしたり毎月虐待チェックシートを用い「不適切なケア」に対しての話し合いをしている。また管理者がその都度指導したり、職員同士お互いに注意し合うなど、プライバシーを損ねない対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	出来るだけ自己決定をしていただけるよう、「お伺い」を立ててから行動している。また、「促し」や「励まし」によって自発的に行動していただけるよう、声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	規則正しい生活が保てるよう、基本的な時間割はあるが、本人のペースや希望を尊重し「お伺い」を立てている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の好みの服を選んで着ていただき、スタッフは季節・気温・汚れ等に配慮している。本人の希望に沿って理美容にかかれるよう支援し、化粧療法を取り入れるなど工夫している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物や調理、準備、片付け等は、出来る範囲で手伝っていただいている。また、昼食は担当のスタッフが一緒に会話を楽しみながら同じ食事を食べている。外食会等で好きな物を食べていただく機会もある。	献立は法人の管理栄養士が作成し、おやつや外出・行事等のときは職員が考え交替で調理している。利用者にも餃子包みや味付けを手伝って貰っている。全員で口腔体操を行い、職員も会話を楽しむ支援をしながら一緒に食事摂っている。時には近くのそば屋から出前を取ったり、外食に行くなど楽しみある支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや栄養バランスを考えた献立を管理栄養士が作成し、毎食後食事量や水分チェック表を記入し、状態の確認をしている。食事以外にも水分摂取を促している。また、一人ひとりに合った食事形態にて提供し食器も工夫し自力にて摂取できるように支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食前は口の体操を行い、食後はスタッフが声掛けをして個々に合わせた口腔ケア用品を使用している。また、義歯は夜間に消毒をしている。		

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個別の排泄記録をつけて、排泄パターンを把握し、時間毎のトイレ誘導と使用物品の工夫により対応している。	職員は排泄記録により、排泄パターンを把握しているが食事や就寝以外は時間になっても無理な声掛けは行っていない。また、生活リズムを把握し自立で立ち上がろうとしている利用者には何気なく付き添い自立にむけた排泄支援に繋いでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	毎日の体操や歩行練習を兼ねた運動を行い、水分摂取量にも気をつけている。また、食事以外にも希望者には牛乳やヨーグルト、ヤクルトなどを出している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日、入浴の希望をとり、時間帯や入浴の長さも出来る限り希望に合わせてるように配慮している。一人ずつ入浴をさせていただき、苦手な方にはタイミングを合わせ、快く入浴できるように工夫している。	入浴は毎日できるようになっているが、殆どの利用者が一日おきの希望になっており午後に支援している。3～4日入られていない方にはタイミングを計らい声かけしている。季節によりゆず湯や入浴剤等を使用し心地よい入浴支援と個々に沿った保湿用品も準備している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間は大きな物音に気をつけ、寝付けない方がいる時はゆっくり話し相手になり、安心できるように一緒に過ごしている。日中も夜にひびかない程度に休息が出来るように配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬の内容を把握できるよう、薬の提供表をファイルしている。また、薬の変更があった際は伝達帳にも記入し、スタッフに周知徹底している。協力病院の薬剤師とは24時間連絡が取れるようにしている。薬は毎食ごとにスタッフが手渡し、内服してもらっている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や調理など出来る事や出来そうな事は手伝っていただけよう促している。また、馴染み深い仕事や趣味と一緒に楽しんでいる。日頃の会話から楽しみにしていること聞き取り、レクリエーション等での気分転換の支援もしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日には外で体操をしたり散歩したり外に出る機会を設けている。買い物に行く際も希望者を募り、一緒に出掛けている。外出やドライブの際には、入居者の希望を聞き、遠方の場合には家族にその旨を伝え、協力を仰いでいる。	天気の良い日に玄関前で全身体操をしたり、焼き芋会を開き楽しんでいる。外食会は全利用者が参加して気兼ねなく利用できるトイレを考慮し道の駅に出かけたり、季節により花見に出かけたりしており、そこでの散歩も楽しみの一つとなっている。近くのコンビニや洋服の買い物など付き添いの支援もしている。	

グループホーム八州苑いわふね

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いとしてスタッフが預かり管理しているが、本人の希望により多少の金額を所持している場合もある。出納帳を作り、レシートを保存し、家族の面会時に内容を確認していただいている。また、買い物時は出来る限り本人に支払っていただくようサポートしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族との通話の際は、居室にてお話できるようコードレスホンを使用したり、手紙を送る際には施設からの通知の封書に同封したり、年賀状を送るなど大切な方との連絡を取るサポートをしている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビの音や照明、日差し、室温の調節等は利用者の確認を取りながら行っている。ホールには湿温度計を設置し、熱中症や感染症等にも注意をしている。室内の装飾は、季節毎に変え利用者が作成した作品等も飾り、居心地良い空間作りに配慮している。	ホールには季節の花が飾られ、中庭からも光が差し込み常に室温の管理がされ臭いもない。壁面には月の行事予定が分かり易く掲げられ、利用者の作品も飾ってある。写真のブースは利用者や職員の顔写真・誕生日が掲げられ家族が訪問されても分かり易くなっている。また利用者は隣のユニットにもドア一枚で行きやすく過ごしやすい配慮をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内の椅子やテレビ周りのソファ、玄関周りの椅子等、自由に過ごせるスペースを確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	食器等も含め、居室内の家具などご自身で使用される物は、使い慣れた馴染みの物を持ち込み使用している。また、思い出の写真なども飾っている。	各居室の入り口は利用者が分かり易いように色違いのマットが敷かれ、本人の写真や季節に応じた写真が貼ってある。カーテンや洗面台は備え付けでベッド・布団は使い慣れたものを持ち込んだり、レンタルの人もいる。馴染みの小物や賞状・写真・テレビ・位牌を置くなどして、居心地よく過ごせる配慮をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内の手すりの設置や物干し台の高さの調整、椅子利用時の踏み台の作成等、入居者の身体機能に合わせた工夫をしている。また、トイレ・居室などの表示や掲示物の大きさや飾り方等調節を行い利用しやすく、安全な環境作りに努めている。		